

# 院外処方箋に記載されている検査値一覧表

H30.11.1作成

略名	項目名称	当院基準値	単位	検査内容
WBC	白血球数	3.3~8.6	10 <sup>3</sup> /μL	白血球数・赤血球数・血小板数は血液 1μL (1mLの1/1000) にどれだけの数が含まれているのかを示します。白血球は身体の中で炎症が生じた場合や感染症・血液疾患等で増減します。ヘモグロビンは赤血球中の酸素を運搬する物質の量を示します。低下している場合は貧血、増加している場合は多血状態です。血小板は出血を止める働きをし、血液疾患等で増減します。
Hb	ヘモグロビン	M13.7~16.8 F11.6~14.8	g/dL	
PLT	血小板数	158~348	10 <sup>3</sup> /μL	
Neutro	好中球	1.9~6.7	10 <sup>3</sup> /μL	白血球は好中球・リンパ球・単球・好酸球・好塩基球などの様々な種類があり、その比率を%や絶対数 #で示します。好中球は細菌を攻撃し免疫に関与します。好中球・好酸球・好塩基球を総称して顆粒球と言います。幼若な顆粒球は感染や血液疾患で血液中に出現することがあります。
PT-INR	プロトロンビン時間 (PT)国際標準比	-		抗凝固薬 (ワルファリン) 服用中の薬効評価の指標です。血液が固まる (凝固) ために必要な、たんぱく質の働きなどを総合的に判断するPT検査結果を、国際的標準表示方法で表したものです。
T-BIL	総ビリルビン	0.4~1.5	mg/dL	皮膚が黄色くなる「黄疸」の程度がわかります。肝胆道系疾患、ある種の貧血で高くなります。また、体質が関係する場合もあります。
AST(GOT)	アミノ基転移酵素	13~30	U/L	肝臓にどのくらい負担がかかっているか、肝細胞障害の程度がわかります。主に肝炎、脂肪肝、肝硬変などで高くなります。他に筋・心疾患・血液疾患でも高くなる場合があります。
ALT(GPT)		M10~42 F7~23	U/L	
CRE		M0.65~1.07 F0.46~0.79	mg/dL	
e-GFR	推算糸球体ろ過量	60~999	ml/分/1.73m <sup>2</sup>	腎臓の働きをみる検査です。腎臓から尿に排泄される老廃物なので、腎臓機能が低下すると増加します。クレアチンは筋肉に由来する物質なので、筋肉量の多い人はやや高め、少ない人はやや低めとなります。e-GFRは血清クレアチニン値から計算された、腎機能の指標です。体表面積1.73m <sup>2</sup> あたりの値で示されています。
Na	ナトリウム	138~145	mmol/L	電解質といい生体内の機能を維持するため一定のバランスに保たれている物質 (陽イオンと陰イオン) です。腎臓機能、脱水、ホルモンの異常などでバランスが崩れると様々な症状を引き起こします。
K	カリウム	3.6~4.8	mmol/L	
HbA1c	ヘモグロビンA1c	4.9~6.0 (NGSP値)	%	ヘモグロビンと糖が結合した物質であり、過去1~2ヶ月間の平均的な血糖状態を反映します。
CK	クレアチンキナーゼ	M59~248 F41~153	U/L	筋肉障害の程度がわかります。骨格筋、心筋、赤血球等に含まれていて細胞破壊により血液中に増加します。